

2013 年 11 月 6 日

2013 年度国内マラソン大会における血液検査の実施について

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) は、ドーピング検査の国際的潮流であるアスリートバイオロジカルパスポートプログラム(Athlete Biological Passport : ABP)の運用を開始しています。

ABP の推進において、今年度の主要な取り組みとして、公益財団法人日本陸上競技連盟と協調し、国内で開催される主なマラソン大会に関連して血液採取を含む検体採取を実施することを予定しています。

ABP は、競技者の検体を経時的に採取することにより、赤血球新生刺激物質や輸血の乱用、従来検出し難かった禁止物質の使用等の行為を検出するための取り組みです。

当機構では、上述のマラソン競技に関連する血液採取のみならず、ABP の運用規模を拡大してきており、2014 年ソチ冬季オリンピック・パラリンピック大会に向け、そして 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会におけるドーピング検査プログラムをより高い次元で実施するため、国際水準のドーピング検査体制の整備を進めてまいります。

JADA のヴィジョンは、真のチャンピオンが正当に評価される社会を護り、発展させることです。JADA は、文部科学省、独立行政法人日本スポーツ振興センターや関係機関とより連携を図り、今後とも教育・啓発活動、検査活動、情報発信、国際貢献事業等を充実し、アンチ・ドーピング活動を推進していきます。今後も、“Play True JAPAN”として臨めるよう、一層協力関係を築いて参ります。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 事務局

TEL: 03-5963-8030